

国際ロータリー第2790地区 第8グループ

創立1957年3月23日

銚子ロータリークラブ会報

第3331号 2025年10月29日(水)発行

例会場 銚子商工会館5階大会議室(銚子市三軒町19-4)

TEL0479-23-0750 FAX0479-25-8789

本日のプログラム

1975-76年度青少年交換留学生 卓話
ジェニファー・ギルバート様
Jenifer Gilbert

前回例会報告(10月22日)

点 鐘: 淵岡 彰介会長
ロータリーソング: 四つのテスト



ビジター紹介:

銚子市地域おこし協力隊 小宮 一恭様

会長挨拶



本日は、我々の日常生活の多くの面で基盤と

なっている「デジタル世界」の今後の動向に大きな影響を与える可能性のある欧米間の争いに関する話をしようと思います。この始まりは、2022年に「デジタルサービス法(通称 DSA)」という法律が EU で可決されたことに始まります。この法律の目的は、Facebook や X といった「超大型オンラインプラットフォーム」に違法コンテンツを取り締まらせることにあり、その趣旨は合理的なのですが、問題は「何が有害か、何が違法か」を決める権限を欧州規制当局に与えており、その対象を欧州企業だけでなく欧州で事業を行う非欧州企業にも適用すると規定したことです。

これに大手テック企業の本場である米国政府が黙っている訳がなく、今年の8月に米連邦取引委員会は、米国の大手テクノロジー企業に対して新たな欧州規制に従わないように警告を発しました。米国政府が自国企業に「EU の法律に従うな」とまでいうのは異例なことで、これは米国のテック企業に向けたものというより EU に向けた「米国のインターネットのルールを EU が決めることは許さない」との明確な宣言で、EU と米国の価値観の衝突ととらえるべきものです。米国ではテクノロジーを成長と自由の源泉と捉えている反面、欧州ではテクノロジーは管理・監視すべきものという、相容れない哲学(価値観)に立脚しています。増加する一方のデジタル犯罪などのリスクを目の当たりにすると、欧州の規制重視の姿勢に納得する面もありますが、その程度によってはイノベーションが芽吹かなくなってしまうリスクもあります。歴史を振り返れば、米国のより自由なアプローチの方が成果を上げてきたことは疑いようのない事実で、過去20年で欧

2025-26年度フランチェスコ・アレツォ RI 会長

銚子 RC Email d2790@choshi-rotary.club

UNITE FOR GOOD よいことのために手を取りあおう

H P <https://www.choshi-rotary.club>

製作◇広報・会報委員会 飯島良春 大岩將道 宮内秀章 上原 航◇



州から世界的テック企業はほとんどでていません。

既に、米国の大手テック企業は、EU当局から罰金や制裁を受けており、トランプ大統領はEUが米企業を締め付け続ければ報復を強化するとまで明言しているのです。これから「EU対米国のデジタル冷戦」が激化していく可能性があります。米国企業は「EUに従えば米国で制裁、反すればEUから巨額の制裁」という板挟み状態にあります。我々個人レベルでも他人事ではありません。冒頭に申し上げたように、世界中の人々が毎日利用するデジタルプラットフォームが対象ですから、その行く末を、注意深く見守っていく必要があると思います。

幹事報告

1. ロータリークラブ役員報告について
 2. 「TSUNAGU2790」賛助クラブ・個人賛助募集のご協力をお願い
 3. 2024-25 寒郡年度月信 13 号
 4. 姉妹クラブ・友好クラブならびに姉妹地区・友好地区に関するアンケート
 5. コーディネーターニュース」2025 年 11 月号
 6. 日本経済新聞全国版全面広告掲載事業
 7. 地区大会 御礼
- …ガバナー事務所



卓話者紹介 上総泰茂例会運営委員長

卓話

「理数教育 (STEAM) を通じた銚子の地域おこしへの挑戦」 銚子市地域おこし協力隊 小宮 一恭様



私は高校生の頃から約 15 年間にわたり、子どもから大人まで幅広い世代がデジタルテクノロジーを体験し、学ぶことができるワークショップの開発と実施を行ってきました。大学院進学後は、プログラミング教育の必修化に伴う普及活動に携わり、その後、理数教育や STEAM 教育の分野で本格的に活動し、テクノロジーを身近に感じられることを目標に実践を重ねてきました。同時期には、東京都竹芝地区のスマートシティ化に向けたまちづくりの取り組みに関わり、デジタルを活用した都市開発や地域のあり方に強い関心を持つようになりました。そして令和 5 年より、銚子市地域おこし協力隊として銚子に移住し、活動を始めました。「銚子市をハッカブルな街にしたい」そんな思いを胸に、地域とともに新しいまちづくりのかたちを模索しています。

ハッカブルな街、すなわちハッキング可能な街とは、企業や行政、市民などが垣根を越え、様々な手法を用いて「自分たちの手で街をアップデートしていく」文化だと考えています。私はこの理念のもと、デジタルの力を活かして、持続可能な産業と豊かな暮らし、そしてその土地に根付く文化を融合させ、未来へと動き出すムーブメントを銚子から生み出したいという思いで活動を続けてきました。

その第一歩として、教育の分野から取り組みを始めています。具体的には、①テクノロジーを学ぶ場づくり、②地域資源とデジタルを掛け合わせた新たな価値の創造、③実装を通じた地域全体のデジタルリテラシーの向上という三つの柱を掲げています。これらを通して、学びと実践の両面から地域にデジタル文化を根づかせることを目指しています。

まず、「地域資源と教育の掛け合わせ」を軸に、地域の企業や文化資源と連携しながら、時代に

合ったデジタル教育教材の開発を進めています。犬吠埼灯台 150 周年記念に合わせた電子工作や、銚子電鉄さまと協働した「電車の仕組みを学ぶワークショップ」など



を実施してきました。これらの取り組みは銚子市民だけでなく、観光で訪れる方にとっても「学びながら銚子を体験できる」機会を生み出しています。

次に、「地域課題と教育の掛け合わせ」を通じて、高校や大学と連携しながら、実際の社会課題をプロジェクトとして扱う実践的な学びを展開しています。例えば、レストランの「営業状況の更新が大変」という課題に対してはセンサーを活用したのれんを開発し、観光周遊を促すクイズゲームや、銚子ならではのデジタル時刻表、地域文化を次世代へ伝える AI 館長など、さまざまなプロジェクトが進行中です。これらの実証や実装を通じて、新たな価値の創出や課題の再発見につながることを期待しています。

こうした活動の積み重ねにより、銚子市が少しずつハッカブルな街へと近づき、デジタル技術を正しく理解し、主体的に活用できる地域へと成長していくことを願っています。私は、この活動が次の世代へと受け継がれる持続可能な文化を育む原動力になることを目指して、今後も取り組みを続けてまいります。



【出席報告】

会員総数 34 名 出席計算 32 名
出席 25 名 欠席 7 名
出席率 78.13%
欠席：藤本君・東川君・川上君・村田君
島田君・時友君・吉原君

【M U】

10/26 ラーニングセミナー（参加 12 名）
淵岡君・林君・石毛君・金島君・加瀬君
宮内(秀)君・大岩君・大里君・信太君・須永君
高橋君・寺内君
10/28 銚子東 RC 大岩君

【ニコニコ】

ニコニコ BOX	¥ 1,000	計	¥147,350
スモールコイン	¥ 1,890	計	¥ 20,243
米山 BOX	¥ —	計	¥ 15,701
希望の風	¥ —	計	¥ 87,000

次週（11月5日）プログラム
「ダバオ支援活動報告」

お弁当：山水（にぎり）



「誓言状」

会員投稿

猿田 正城会員



過日、猿田神社に残された古文書の調査を市の文化財関係の人たちと行ないました。その時、「これは面白い」と係の一人が言うので、見ましたところ、表書きに誓言状とありました。江戸時代末期の古文書の中のものです。

「この度、村内にてもみ米一俵紛失の事有り。依りて神慮を畏み奉りて、神前にて誓言する。なに人たりとも無用にて他家に押入り、物品を無断借用せざる事。（清瀧村名主・及び村民名は省略）」

盗難のことを紛失と言ひ、盗みのことを無断借用としていることを面白いと言ったのだと思います。これを書いた人は清瀧村の名主だと思いますが、では何故、名主はこのような書き方をしたのでしょうか。

この時代に清瀧村には佐吉という博徒の親分とその一家が住んでいました。この事を考えると名主の知恵、気配りのようにも思います。会員の皆様はどのように考えますか、教えてください。

以上

第8グループ ラーニングセミナー

10月26日(日曜日)

旭市商工会館 3階 会議室

点 鐘 13:30

テーマ「会員増強」



基調講演

「MISSION POSSIBLE
:わがクラブに合った増強作戦」



北川幸靖ガバナー補佐

講 師

第一地域ロータリー会員増強コーディネーター補佐 (ARMC)

大高 司郎 様 (RID2820 高萩 RC)



グループディスカッション
及び発表

